（第三種郵便物認可）　島根日日新聞　企画特集　2009年（平成21年）2月12日（木曜日）（6）

核大国の結節点にある　朝鮮半島と日本列島

歴史の転換点における　出雲の地政学的役割

世界金融経済危機に加え、日本孤立の兆候、基幹産業である自動車、電子産業の極度の不振、上場企業の連続倒産、過去に例のない失業者急増と、社会混乱が懸念される状況を迎えている。私たちが住む島根県はさらに、財政の極度のひっ迫、人口の減少と少子高齢化、竹島問題など多くの難問を抱え、深刻な閉塞（へいそく）感が漂っている。ソビエト連邦崩壊の二年前にあたる一九八八（昭和六十三）年に会社経営のかたわら知革塾を開設、人間の本質的なあり方から世界の構造変化を見通して、平和、環境、健康に関する実践的な研究と実践を続けている財団法人人間自然科学研究所の小松昭夫理事長に、私たちがおかれている現状とその打開策、出雲の果たす地政学的役割について菊地幸介島根日日新聞社社主が聞いた。

財団法人人間自然科学研究所理事長
小松電機産業株式会社代表取締役
小松 昭夫 氏

1944（昭和19）年生まれ。1973（昭和48）年創業。社是「社業を通じて社会に貢献し喜びの輪を広げよう」。1985（昭和60）年、シートシャッター「門番」発表。1988年知革塾設立。1989（平成元）年、協同組合「テクノにびき」設立。1992（平成4）年、韓国・東安FAにシートシャッター「門番」製造技術無償供与。上下水道制御管理システム「やくも水神」発表。1991（平成3）年、ニュービジネス大賞受賞。2007（平成19）年、地球温暖化防止貢献で国土交通大臣表彰。

―小松理事長は、県内有数の企業である小松電機産業の創業社長でもあります。まず会社を創業した経緯を。

小松　長男で家庭もゆとりがなく、両親と祖母、二人の弟たちを助けるためにも当然のこととして地元での就職を考えました。そこで家族と自分の未来に対する希望の両立を考え、本社と研究開発部門が地元にある佐藤造機（※1）に入社するため、松江工業高校機械科に入学しました。

入社後すぐ希望の研究開発に携わるためには、学生時代に何をすべきかを考えました。農業機械の心臓部はトランスミッションだと考え、その基礎技術を身につけるため、学生という立場を生かし、卒業論文を書くということでたくさんの農業機械メーカーから技術資料を送っていただきました。おかげで卒論最高賞をいただき、入社後、他社の農耕機の情報に一番詳しい開発者になり、トランスミッションの開発を通じて先見性と、矛盾することを両立する知恵と技術、工業デザインを通じて美を探求し、この経験が後の経営に役立ちました。

倒産する三年くらい前に、「この会社は危ない」と感じるようになり、いろんな方に相談しましたが、誰も真剣にとりあってくれませんでした。倒産に至る因果関係を研究する中で、原因は社風にあり、地域文化と密接な関係にあるとの結論に至りました。

倒産する一カ月前から休暇をとり、安来市の清水寺へひとりで座禅に通い、今後どのように生きるかを考えました。その最終日に雪のなか傘をさして石段を下る途中でひらめきがおきました。

未来ではっきりしているのは死。それ以外にはっきりしているものは何もない。いつ来るかわからない死のときに「たのしい人生だった。だんだん」と言って死ねる状況をなるべく早くつくり、その状況を保ち、より高い次元の「世のため、人のため、自分のため」の人生を追求すれば、いつ死が来たとしても受け入れることができるに違いない。つまり〝想い〟の確立と現実化のために、いまなすべきことを考える思考回路ができました。

一月の大風、二月の豪雪、そして三月に八年間勤務した佐藤造機が倒産し、はっきりとした根拠はありませんが、これから大きな変化が訪れ、自分と地域の未来は明るくなると思えてきました。

それから大阪に出て二年間ビジネスの実地訓練をし、オイルショックの前年の暮れに、兄弟二人で大阪で調達した中古小型トラックに資料と工具類を積んで地元に帰ってきました。二人分の失業保険金三十万円から、車と工具箱や作業場改造費を払った残りの十万円を元手にポンプの修理業を始めました。

現実を直視、時代の風と技術を組み合わせ、思いを現実化する繰り返しのなかで今の会社をつくってきました。倒産した二十六歳のときに、たくさんの悲劇を目の当たりにしました。その体験から、中国古典、松下幸之助翁経営百話のテープを買って繰り返し聞く中で、「社会変動があっても絶対につぶれないダム式経営」を念頭に、今日まで経営してきました。

三十五年の会社経営を通じて言えることは、楽しく持続的に生きるために、何を確保し、何を譲るか。そこから「一隅を守り、千里を照らす」（※2）という考え方が生まれました。これが持続的に会社、自治体、国家を経営する要点であり、出雲大社の和譲（※3）につながると考えています。

―最近は国際平和博物館会議などに積極的に参加したり、定期的な国際会議の開催を目指しておられるそうですが、人間自然科学研究所のコンセプトと設立の経緯は。

小松　一国で生きられる国はないグローバル時代に、世界規模の金融経済危機を迎えています。これからは人類の特性である対立と依存、社会背景により異なる人間の定義と現代平和学とともに、コンセプト（価値）、コンテンツ（映像）、キャラクター（個性）の三要素を探求し、先端技術をくみあわせてあらゆる組織を再構築しなければ持続的に繁栄できる未来は開けません。

会社の基礎体力をつくった後、門番、水神という二つの異なる分野の商材でマーケット創造、ブランド化を通じて収益を生み出し、人間自然科学研究所をつくり、誇りをもって人が、会社が、国家が存続するための実践的研究を通じて、出雲の地政学的意義の解明を続けてきました。

社会は、「言ったことはやる」。約束したことは守る」の〝信〟で成り立っています。金融不況は、信の崩壊を意味し、社会の崩壊につながります。

中国の和諧社会、米国のスマートパワー、韓国のオウトピア（※4）、日本の和譲が未来を開くヒントを提供しています。

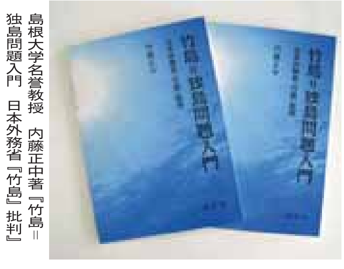
金融資本主義から政治資本主義の時代へ

―世界同時不況が懸念されています。外交、内政でも各国とも問題が山積しています。今どんな時代という認識でしょうか。

小松　人類は狩猟、農耕を経て、科学技術の発達とともに工業化社会を生み出しました。これは過去にない貧富の格差を生じ、内部対立につながり、ナショナリズムの台頭を生み、国民は総力戦から甚大な損害を被るようになりました。

史上初の総力戦である第一次世界大戦の経験から国際連盟が発足しましたが、人類初の核兵器が使われた第二次世界大戦を防げませんでした。戦後、戦勝国を中心に国際連合を結成しましたが、朝鮮、ベトナム戦争、東西の核軍拡競争からソ連の崩壊に至り、その後の地域紛争はますます複雑化し、世界的規模の金融経済混乱期を迎え、危険な保護主義の兆候も見えてきました。

米国はときに武力を伴いながら資本主義、民主主義、基本的人権の種をまき、今日の世界を出現させました。その結果、飢餓と殺りくを克服した地域が世界に広がりましたが、いまだ厳しい環境の地域もあります。私はこれを「対立の文化の上に華開いた文明」と考え、いまはその終えん期、百年に一度の変化ではなく、人類史上初めて対立の文化から共生の文化へ転換が図れるか、大崩壊に入るかの分水嶺に差し掛かったと認識しています。



島根大学名誉教授　内藤正中著『竹島＝独島問題入門　日本外務省『竹島』批判』

―日本も世界も厳しい状況におかれています。この時代に経営者・リーダーはどうあるべきだと思いますか。

小松　まず人間の条件である「強くなければ生きられない　優しさがなければ生きる資格がない」。その上でリーダーの条件はワイツゼッカー・ドイツ連邦大統領の「過去に眼を閉ざす者は、未来に対してもやはり盲目となる」、ビスマルク・初代ドイツ帝国首相の「愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ」。二宮尊徳先生の「理念なき経済は罪悪、経済なき理念はたわごと」「一家を廃して万家を興す」、また私のふるさとの松江市八雲町岩坂に伝わる水の偉人周藤弥兵衛翁（※5）の生き方は、首相、知事、市長、大学長、企業経営者を含め、あらゆるリーダーの指針と考えています。

リーダーには持続可能な社会や組織を経営するために、構想力と高度な戦略性が必要不可欠です。具体的には外のお役に立つことで内にお金が入り、また内のことを外にお願いして、内外の循環が持続可能になります。これが難しい場合には連携によって、第三者のお役に立つことで内にお金を得ることができます。これから外れた人たちも内でお役に立つことで、お金が循環します。

このお金の動くプロセスで信の輪が広がり、笑顔が増え、価値観が向上し、有意義な人生を送れる人が増えるよう誘導することが政治であり、経済はこのためのインフラと手段であると考えています。

行政肥大化の構造

「リーダーは知って犯す罪よりも、知らなくて犯す罪がはるかに重い」。混迷の時代のリーダーに最も必要とされる資質は、時代を察知する能力と、災いを福に変える使命感から生まれる判断力です。先端技術を生かした仮説を立て、時代の風、地の利を得て、人の和の生まれる決断と行動が必要不可欠です。

行政の役割は、この循環が円滑に進むためのサービスと、事務局に徹することです。いまの島根県と市町村は行政主導型であり、人々の活力や思考能力は奪われてしまい、行政に〝お願い〟を繰り返すことになり行政もまたそれに応えることが仕事と錯覚し、ますます民間の創意工夫が失われ、肥大化を招き、財政破綻に至ります。

このなかで富を得続けると、人材の育たない文化、閉塞（へいそく）感に満ちた社会になり、不毛の「不況対策」「地域振興」「自立」「団結」という言葉がはびこり、廃墟ができ、抗争を生み出し、無気力、信の崩壊、社会崩壊に陥ります。

時代の風と地域特性を生かし、話し合いで怨念、恨み、打算を止揚（アウフヘーベン）（※6）に導き、世界の紛争地帯に希望と勇気を提供する。日本と韓国と北朝鮮の問題はもちろんのこと、地域、個人間の問題も本質的には同じです。これは現在のリーダーにもっとも必要とされる資質です。

◀朝鮮半島・日本列島から始まる「対立の文化から共生の文化へ」のシンボルとして竹島独島に、朝鮮戦争参戦国の民俗服を着た「地球共生・縁結びの女性像」の建立を1999年に提案

※1　島根県八束郡東出雲町に本社を置き、農業機械全般を製造していた企業。創業は一九一四（大正三）年。一九七一（昭和四六）年会社更生法を申請。その後、三菱農機販売株式会社と合併し、社名を三菱農機株式会社へ変更。

※2　比叡山延暦寺の開祖最澄（伝教大師）が著した『山家学生式（さんげがくしょうしき）』の中の教え。

※3　和譲とは、二宮尊徳が商売の真髄を伝えた言葉「推譲」と、出雲大社の神語「幸魂奇魂（さきみたま くしみたま）」、大国主命の国譲りから、出雲大社の千家達彦宮司が考案した。

※4　和諧は現代中国のスローガン。二〇〇一年に江沢民氏が中国共産党創立八十周年大会で表明したことから始まる。中国共産党はかつての世界革命から和諧世界創造まで、政治理念を転換した。紛争地帯に「いくつかの和諧地域」をつくりあげることから恒久平和、共同繁栄する世界を形成するとしている。スマートパワーはハーバード大学のジョゼフ・ナイ教授らが説く概念を用い、米国のオバマ政権で用いられるようになった。三つのソフトパワー（感情を加味した知能、ビジョン、対話力）と、二つのハードパワー（組織力、権謀術数）を、「全体の文脈を踏まえて融合する力」を意味する。オウトピアは韓国の趙永植・慶熙大学校学園長が提唱した、二十一世紀の人類のモデル。英語のoughtとtopiaを混ぜ、当然そうなるべきところ、を提唱、推進団体として世界各国にGCSが生まれた。博士は一九八一年に国連を通じて「世界平和の日」「平和の年」の設定を満場一致で可決させた。

※5　周藤彌兵衛は三百年前、現在の松江市八雲町を流れる意宇川の治水のために五十六歳から四十二年間を掛けて剣山を切り抜き、川の流れを変えた。百二歳で大往生した。「日吉切通し」は現存、たくさんの人が訪れている。

※6　止揚（アウフヘーベン）は、ヘーゲルが弁証法の中で提唱。否定を発展の契機としてとらえ、自然や社会・思考の発展の過程で広く作用していると唱えた。

※7　安重根（アン・ジュングン、一八七九年―一九一〇年）は朝鮮の民族主義運動家。初代韓国統監伊藤博文をハルビンで射殺した。旅順獄中で絶筆「東洋平和論」を残し、処刑される。宮城県栗原市大林寺（斉藤泰彦住職）で日韓合同の法要が毎年秋に行われている。韓国の安重根義士記念館の金鎬逸館長は二〇〇八年、東洋平和論について松江で講演した。参考図書　斉藤充功著「伊藤博文を撃った男―革命義士安重根の原像」

※8　九三学社　一九四四年末に重慶で組織された民主科学座談会が母体。一九四五年九月三日、抗日戦争と反ファシズム戦争勝利を記念するために、九三学社と名称を変えた。博士・学士など文化、科学技術の知識人を主とする。

※9　清原太兵衛（一七一二―一七八七年）は、斐伊川の東流による宍道湖の水位上昇から松江を守り、新田開発、海運、松江・鹿島の発展を目的に人工河川佐陀川の開削を松江藩に提唱し実現させた。

―これからもっと厳しい時代に突入することが予想されます。この地域の問題点はどこにありますか。

小松　出雲市では歌舞伎公演のための阿国座建設が大きな論議となっています。議員の方から意見を求められ、私は「事業内容、そして国家財政と社会情勢を考えれば、阿国座は税金ではなく、寄付金で建設すべき」と答えました。歌舞伎の元祖、出雲阿国は勧進（寄付）によって浄財を集めた人。このプロセスのなかで知恵と感動の輪と笑顔が広がり、施設に魂が入り、出雲大社のように持続していけるのです。

また大きな問題になっている大橋川改修は再考すべきです。いまは上流のダムと中流の放水路に集中的に資金を投入し、早く完成させるべきです。宍道湖の水位上昇は、命に差し支えはありません。全国には濁流により命が奪われる河川がたくさんあります。そちらにお金は回すべきです。未曾有の世界経済危機と、国家的財政危機、社会不安が懸念されるなかで拡幅工事に無理に着手すれば、途中で工事が止まる可能性が非常に高いばかりではなく、島根原子力発電所のプルサーマル燃料使用可否も絡み、観光松江は壊滅的打撃を受けるはずです。そうなれば推進した人たちの人格も問われかねません。「上中流の住民の感情的問題から大橋川拡幅はやるべき」との話がありますが、これは責任を上中流住民に転嫁する最も恥ずべき態度です。

島根県並河萬里写真財団設立準備のときにも、県の総務部長から相談を受けましたが、行政がつくるべき財団ではないと思い、私は反対いたしました。その結果、私を外して財団がつくられ、たくさんの公金が浪費され、作品は死蔵され、当時の責任者は沈黙しています。

中海干拓中止の際にも、そのようなことがありました。そのほかにもこのようなことはいくらでもあげられます。

急場の対策にあわせて、この地域の持続可能な未来を見通したグランドデザインをつくる開かれた議論の場を設けることが緊急の課題です。このプロセスを定期的にメディアが報道すれば、構想力と具現化のための仮説のつくれる人材の発掘と養成につながり、資金が集まり、夜明けが来ます。私は衆知が集まるこの方法で、今日をつくってきました。

財団法人人間自然科学研究所が2008年6月に刊行した中日韓英の4カ国語で編纂された中国古典名言録

―東アジアは歴史に関わる緊張関係、経済的な摩擦があります。私たちは中国や韓国、北朝鮮の人たちとどのように接するべきだと考えますか。

小松　東西冷戦が残りアジアで最も工業化が進んだ朝鮮半島と日本列島は、三大核大国である中国、露国、米国が均衡する位置にあり、人類の命運を担っている地域と認識しています。本年、この地域はさらに大きな苦難に見舞われる可能性があります。

「国際社会において、名誉ある地位を占めたい」と憲法前文にあります。日本人は、中国、朝鮮半島、アジアの人と正面から向かいあうためにも、加害の歴史を前提に接しなければなりません。私は二十年にわたり世界各国の戦争記念館を訪ねてきました。献花、寄付をする度に、「謝罪屋か」とか「平和主義者か」と問われますが、私は卑屈にならず、戦後責任を果たす世代という立場で「歴史の転換期におけるグローバル時代の日本人の経営者だ」と答えてきました。

来年は安重根義士の東洋平和論（※7）執筆と、日韓併合から百年を迎えます。日本が朝鮮半島を併合したのであって、朝鮮が日本を併合したのではありません。日本が中国に兵隊を送ったのであり、中国が日本に兵隊を送ったわけではありません。経済社会混乱のなか、各国に怨念発電所とも呼ばれる戦争記念館がたくさんつくられており、日本人の胆力と知恵と勇気と行動力が試されているともいえます。

菊池寛先生の著書「恩讐の彼方に」では、被害者と加害者が一緒になって世のため人のために行う事業の完成は、怨念を、感激と感動に変える力があり、これによってのみ、人間にとって最も難しいといわれる「許す」気持ちが生まれると教えています。

―日本海をめぐる様々な問題の解決に向けてどのようなアプローチをしていけばよいですか。

小松　竹島・独島問題をはじめ朝鮮半島と日本のあらゆる問題を、「世界の問題を解決する入り口」と捉えることです。そうすれば憲法前文と整合性がある国是の制定に向けて、希望の生まれる議論が始まります。

島根日日新聞社 社主　菊地幸介

和譲から生まれる政党と国民国連

島根県の竹島に対する取り組みは、ブッシュ大統領の発言もあり、世界に知られました。このほかにも米国上下院、カナダ、オランダ、EU、フィリピン、オーストラリア議会による慰安婦謝罪決議や、海洋国際会議における日本海東海呼称協議などがあります。

さらに核拡散をめぐる六カ国協議に拉致問題が絡まり、この地域が紛争地帯として広く世界に知られるようになりました。

オバマ大統領とクリントン国務長官の登場は、日米関係に大きな変化を起こすと思われます。朝鮮半島と日本の混乱、中国台湾、露国との領土問題と重なり、大きな危機が迫る可能性があります。これを放置することは日本の孤立につながり、国民生活に壊滅的な悪影響を及ぼすはずです。

当研究所の理事である内藤正中島根大名誉教授の最新の著書「竹島＝独島問題入門」は、韓国マスコミでも大きく取り上げられました。

日韓両国は東西冷戦の中、中東の安い油と、欧米から市場の提供を受けるなかで繁栄して来ました。現在の世界的な混乱状況から考えれば、日韓両国、そして島根県の取り組みは、恥の上塗り以外の何物でもないと思います。

韓国の李明博大統領は就任後すぐに、環境問題を解決するための日本との提携を提唱いたしましたが、竹島問題で宙に浮いてしまいました。日本は世界、そして近隣諸国にも友達がいない、友達のつくり方も知らないといわれています。被害、加害の歴史を、双方が過去完了ではなく、現在進行形で捉えることから気持ちが通じ、困難な問題を解決するための友達になることができます。これが人間の、そして国家の品格の基点ではないでしょうか。

現在進行形の国際関係構築

一国では生きられないグローバル時代のなかで、日本には国是がありません。韓国、北朝鮮にも見えません。このことが優れたリーダーが登場しない根本的な理由です。楽しく持続的に生きられる地球社会をつくるために、その国と国民がどういう役割を世界のなかで担うのかを、過去、現在、未来を見据えて定めるのが国是であり、そこから生まれるのがアイデンティティーです。

会社では社是にあたります。社是のない会社や組織には持続的な発展はありえず、現存しているとすれば、どこかに大きな迷惑をかけながら寄生しているに過ぎません。

韓国と北朝鮮は分断国家になっています。これには日本に大きな責任があり、日本、韓国、北朝鮮の間は準戦争状態のまま百年の時間が流れ、その中でおきたのが拉致事件です。核保有を宣言した国で、核を放棄した国はありません。日本、韓国が米国の「核の傘」のなかにいる以上、北朝鮮が世界で初めて核を放棄するには、日本・韓国とともに人類の歴史に対して責任を果たすという、シナリオが必要です。

どこの国もそうですが核大国である中国、露国、米国も、国内に大きな問題を抱えています。国内の対立が臨界点を超えれば、核は最も危険な存在になります。この可能性を回避するためにも、朝鮮半島と日本列島の非核化は、核大国、保有国に、比類なき影響を与え、紛争地帯に希望と勇気を提供できるはずです。これをもとに平和構築のノウハウを確立することができれば、環日本海圏は、世界から最も期待される地域になるはずです。これこそが戦後、繁栄を享受してきた日本と韓国の果たすべき役割ではないでしょうか。

―今後どう活動をしていく予定ですか。

小松　今までの活動の集大成として、四カ国語による「グローバル時代の人間学　中国古典名言録」を北京で先進的な研究者の集団によって刊行することができました。十二月には北京で、この縁をつくっていただいた、蕭向前中日友好協会副会長の自宅を訪問し、今までの報告と完成した名言録を贈呈いたしました。また、この出版を契機に携わった研究者のみなさんのほか、社会科学院、九三学社（※8）の幹部、孔子・孟子・周藤弥兵衛翁・清原太兵衛翁（※9）の四体の山東省台児荘での銅像制作にお世話になった邢雁中国画報協会会長、張承鈞元盧溝橋抗日記念館館長や、マスコミ関係者が出席され、記念フォーラムを開催いただきました。

世界的な社会環境、自然環境、健康問題を解決するためには、平和が必要不可欠で、そのためには国家代表で構成される国連のほかに、各国国民で構成され地球益をめざす国民国連を寄付によりつくる必要がある。北京のフォーラムで、この構想を発表しました。

金融資本主義の崩壊ののち、政治が金融・経済活動に直接的に関与する政治資本主義の兆候が見られるようになってきました。国家資本主義は第二次世界大戦直前の世界状況からもわかるように、ブロック経済化による国家間対立と、経済の疲弊による国内対立を生みます。極限まで進めば戦争を起こしてしまう可能性があります。

都市巨大化と道州制

世界的に若者の大量失業時代に入り、暗黒社会の到来を予測させています。これを回避するためには、世界規模で国民国連をつくる地方発の政党の結成を図り、都会に集中した若者が地方に目を向ける活動をすぐにも始めなければなりません。

特にアジアでは東京、上海、ソウルなどに見られるように人と資源が都市に集中しています。そこと地方が相互依存関係をつくるためには、日本では特徴のある一千万人規模の道州制導入が必要不可欠です。

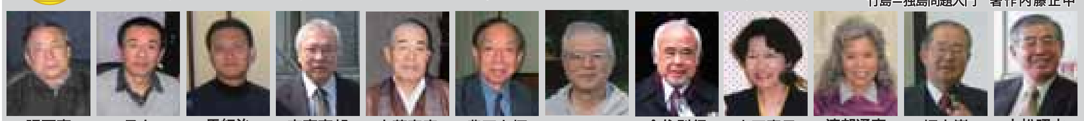
日本、韓国、北朝鮮が真の独立国として生き、世界で必要不可欠な国とされるためには、問題を資源として生かし、上下の格差をなくし論理的に議論するという条件で言論の自由を保障する国民国連を生み出す「場」を用意する必要があります。競争と共生が矛盾なく両立、私益と公益が一致する〝真民主資本主義〟が生まれ、時代が動く可能性が出てきます。

二〇〇九年二月二十二日「竹島の日」に、松江市のくにびきメッセ国際会議場において、構想と実現のためのシンポジウムを行います。これが全国世界に波及し、地方発の政党、さらに国民国連が生まれる勉強会の誕生を願い、議論の場を提供いたします。ご参加、ご批判、ご協力、ご意見をお待ちしています。

中国古典名言録出版を記念した北京フォーラム＝2008年12月6日、北京にて

この記事に関する問い合わせは、〒690－0046 島根県松江市乃木福富町735－188 湖南テクノパーク内
財団法人人間自然科学研究所 TEL050-3161-2490　FAX050-3161-3846　E-mail:webmaster@hns.gr.jp まで。
この記事は、財団法人人間自然科学研究所ホームページ http://www.hns.gr.jp で公開しています。

混迷の時代、出雲から陽が昇る
出版記念　中日韓英四カ国語対訳　中国古典名言録　発行人小松昭夫　竹島＝独島問題入門　著作内藤正中



張可喜　孟白　馬紅治　安齋育郎　斉藤泰彦　豊田有恒　戸塚悦朗　金住則行　安田壽子　渡部通恵　坂本巌　小松昭夫

■講演会 8:50～14:20
■オープニング映像
■21世紀の新たな民主資本主義　地方発の政党と国民国連構想
■世界の現状と、中国古典名言録の意義
■安重根義士と日本人看守の秘話
休憩 12:00～13:00
■歴史問題に関する対立の克服と解決の方向性について平和学の考察　平和博物館の役割とあり方
■シンポジウム 14:30～16:00　国民国連構想と朝鮮半島と日本列島の役割
■分科会 16:10～17:30
■第1分科会　尊厳の命から未来をひらく
■第2分科会　日本の改革は司法改革から
■第3分科会　古代日本と渡来人
■第4分科会　人は人によって生かされる～平和の上に
2009年 期日 2月22日（日） 受付 8:00～
場所 くにびきメッセ国際会議場（参加費 無料）
松江東急イン（懇親会）受付18:00～（参加費5,000円）
財団法人 人間自然科学研究所　http://www.hns.gr.jp　E-mail : webmaster@hns.gr.jp
TEL 050-3161-2490　FAX 050-3161-3846

島根県は2005年、「竹島の日」条例制定によって領有権主張を世界に向けて明確にしましたが、国政の場で韓国との交渉はされた形跡がありません。金融資本主義が終焉し、世界は混迷のときを迎えています。2月22日に第4回「竹島の日」を迎えます。みなさまの積極的なご参加を、心よりお待ちしております。

竹島＝独島問題入門 ―日本外務省『竹島』批判― 内藤正中著
画文集 黄鶴楼と華
新版 論語
中國古典名言録
こども論語塾
魔法の経営
母なる中海
太陽の國
周藤弥兵衛 清原太兵衛 大梶七兵衛
財団法人 人間自然科学研究所　〒690-0046 島根県松江市乃木福富町735-188　TEL.050-3161-3490・FAX.050-3161-3846　http://www.hns.gr.jp

映画『築城せよ！』

本物の時代へ　シートシャッター門番 KVシリーズ　超気密　超耐久
プラント監視制御装置 パッケージ水神
マンホールポンプ制御盤
小松電機産業株式会社　http://www.komatsuelec.co.jp/